

平成 24 年度 卒業式式辞 「大丈夫。」

理事長・学長 吉岡 章

医学部医学科第 58 期生 100 名、看護学科第 6 期生 81 名の諸君、卒業おめでとう。

奈良県立医科大学の教職員を代表して心からお祝いを申します。

無事この日を迎えられたのは、諸君のたゆまぬ勉強と心身の鍛練、そして夢に向かっての向上心が大きく結実したものと、うれしく思います。加えて、厳しく、かつ、温かく指導して下さった教授・教官・職員の方々、さらに愛情に満ちた応援を惜しまなかった御両親・御家族そして友人のお陰であることも忘れないで下さい。

医学科卒業生諸君の中で本学附属病院を中心とした研修プログラム、または、県内病院のプログラムを選んだ人は計 49 名でした。奈良県全体で見ますと、研修医定員枠 103 名に対してその充足数は 86 名と全国第 10 位と高いものでした。

一方、看護学科の場合は全卒業生のうち 36 名が



本学附属病院に、5 名が県内医療機関に、合計 41 名が県内に就職します。両学科のこの県内約 50% という数字に私は納得していません。もっと本学に残って欲しいからです。これから本学は、医学科・看護学科学士の教育・実習の更なる充実と環境の改善、

Contents

卒業式式辞..... 1～3	■大和漢方医学薬学講演会開催報告／
■退任挨拶／■第 2 期中期計画を策定4	■平成 24 年度後期公開講座開催報告 16
■就任挨拶／■学位授与.....5	■医学教育講演会開催報告／
■新たなる旅立ち.....6	■MBT (Medicine-Based Town) シンポジウム開催報告 ... 17
■平成 25 年度学事計画7	■第 20 回中島佐一学術研究奨励賞決定／■第 2 回女性研究者学術研究奨励賞決定／■女性研究者支援センター研修会開催報告 ... 18
■入試結果.....8	■病院正面玄関・総合案内付近改修／
■クラブ紹介 (女子バレー部・写真部)9	■院内緑化“エコロジーガーデン”を導入..... 19
■図書館だより..... 10	■病院ボランティア活動紹介／■化学療法室での取り組み紹介 ... 20
■教務システムを導入／	■看護部門紹介 (C8・C3・精神医療センター) 21
■法人の企画・運営に関するアイデア募集の結果報告..... 11	■日本集中治療医学会学術集会優秀演題賞受賞／
■平成 25 年度予算 12～13	■平成 24 年度学会等における論文賞等の受賞結果 22
■産学官連携だより..... 14	■レポート 23
■総合研究棟開設 20 周年記念事業開催案内	メディア掲載情報／下ツ道／広告 24
■チェンマイ大学との交流／■保育園に砂場セットが寄贈... 15	



そして、卒後の医師・看護師としてのキャリア形成に従来にも増して大きな力を入れて参ります。どうか1人でも多くの卒業生が本学附属病院でキャリアを重ね、将来の医療指導者として活躍されることを期待しています。

本学は、本日卒業する医学科学生諸君が入学した6年前、平成19年(2007年)に独立行政法人化し、公立大学法人奈良県立医科大学となりました。従来の公立・県立の良い点と、民間の良い点をうまくハイブリッド化することを図ったものでありました。新しい法人としての本学は、ちょうど諸君の6年間、4年間と共に成長、発展して参りました。幸い第一期中期計画期間の6年間の所期の目標・計画は概ね順調に進捗しているとの評価を受けています。

4月からは、第二期の6年間に入ります。さらなる本学の発展を目指して、荒井県知事からは6つの目標が示されました。まず、地域貢献、そして、教育、研究、診療、加えてまちづくりと法人運営です。この半年余り、知事と「奈良医大の未来を考える委員会」、そして私共奈良医大の役員、「中長期計画推進委員会」のメンバーが、さらに、県の担当部局と我々が何度も何度も話し合い、先日、最終案として県議会に上程されました。この目標と計画の重要なキーワードは、「地域貢献」であり、いかに本学が良い医師、良い看護師を育成し、そして、いかに多くの医師、看護師が奈良県で意欲を持って医療に従事していただくかを図ることにあります。その達成のための重要な施策の一つとして、平成33年に医学・看護学の教育・研究部門を、ここから約1kmの現県農業総合センター跡に移転することも決定いただきました。また、移転後の跡地では、県や橿原市と共に医学・医療・福祉をベースとした新しいまちづくりが計画されて

います。これから奈良医大は名実ともに大発展をして参ります。

さて、私にも心の通いあえる友人というか同士が何人かいます。仕事柄、小児科医が多いです。その一人が細谷 亮太医師です。細谷先生は、東北大学を卒業後、長年、聖路加国際病院小児科に勤務し、つい先ごろ定年退職しました。彼は小児がん・小児血液の専門医であると同時に、唳々という俳号を持つ俳人でもあります。

彼は多くの方々と力を合わせ、北海道滝川市に「そらぶちキッズキャンプ」を完成させました。小児がんや心臓病などの重い病気と闘う子ども達のためのもので、日本で初の医療施設が整った自然の中のキャンプ場です。私はそれには直接的には関与していませんが、古い友人である東大寺福祉療育病院の富和清隆副院長や本学小児科の嶋教授らと「奈良親子レ





スパイトハウス」というプロジェクトを2011年から始めました。

これは細谷先生らの「キャンプ」にヒントを得たもので、重い障害を持つ子どもと家族が、奈良公園内の東大寺の宿坊でしばし心身を休め、生きる力を育むための一時的なお休み（レスパイト）の場所を提供し、豊かな自然と境内という環境の中で親子ともに生きる喜びを再発見してもらうものです。

細谷先生は、最近「大丈夫。一小児科医・細谷亮太のコトバー」という映画を完成させました。2011年度キネマ旬報文化映画部門第一位に輝きました。このタイトルである「大丈夫」には「大丈夫」のあとに句読点の「。」がついています。これは私達小児科医が、子ども達に「大丈夫？」とか「大丈夫ですか？」と問いかける「？」ではなくて、断定の「。」がついています。映画をつくった伊勢 真一監督が、わざわざ

づつけたものです。

映画は、複数の小児がんの子ども達と細谷先生ら医療スタッフの日常の診療と子ども達との別れを映しています。細谷先生は、「自分は死なない程度になんとか人生を送って来ました。一方、死にたくなくとも死ななければならなかったたくさん子ども達を見送ってきました。そんな中で培われたのが私の『大丈夫。』です。」と言っています。ふと思い返してみると、小児科医であった私も病気の子供達に「大丈夫だよ」とか「大丈夫だからね」と「大丈夫。」を口ぐせにしていたように思います。

さて、本日めでたく本学を卒業して、医師、看護師になる諸君。諸君も多くの人間がそうであるように、あるいは医師が、看護師がそうであるように、これからも様々な困難に直面します。自分自身が「もうだめだ」と思うこともきっとあるでしょう。一方、患者さんは重い病の痛みや苦しみの中で「もうだめだ」、「もう死にたい」と思うことが何度もあります。人様、それも患者さんを目の前に、医師として、看護師として「大丈夫。」というには、相当な勇気がります。そのためには、まず、自分を磨かねばなりません。知識も、技術も、そして心をも磨き、備えねばなりません。長い時間とつらい努力を重ねての豊かな経験が必要です。そして最後に、祈るような気持ちを込めて「大丈夫。」と言えるようになって下さい。

どうか諸君、そういうお祈りの気持ちが込められた「大丈夫。」が与える信頼関係で結ばれた人間と人間のつながりの中で生きて行って下さい。

諸君の長い人生の旅の御無事と、医師として、看護師としてのそれぞれの旅の豊かならんことを祈ります。「大丈夫。」。



退任挨拶

退任にあたって

中央臨床検査部
教授 岡本 康幸
おかもと やすゆき



このたび任期を終えて退任することになりました。私は、平成12年から中央臨床検査部（中検）の教授兼部長に就任し、今日に至っておりますが、就任直後に中検創設40周年を、そして退任直前に50周年を経験させていただきました。10年一昔といいますが、記念イベントがあるとその時代背景を想起しやすく、変化がよく分かります。とくに顕著な変化は職員の採用状況です。就任当時は、附属病院の経営改善計画として中検の人件費削減も挙げられていました。そのため技師の新規採用がゼロで非正規の職員による補充が何年も続き、将来に不安を感じる日々でありました。しかし、最近では事情が好転し、若い非正規の職員はほぼなくなり、毎年数人の正規職員を採用していただいています。このことは検査技師諸氏の業務改善努力と、病院長をはじめとする病院管理・経営陣のご支援によるものと感謝しております。今後も中検は、大学病院の検査部として担うべき役割を自覚し、医療の進歩のために貢献していかねばなりません。それができなければ危機は再び訪れることになるでしょう。私自身は、非常に微々たるものですが、中検で自分なりにできることはやってきたつもりです。力の及ばぬところは多々ありましたが、その点はご容赦いただきますようお願いいたします。最後に、これまでお世話になった皆様に心よりお礼を申し上げますとともに、本学の益々の発展を祈念いたします。

退任のあいさつ

中央放射線部
技師長（兼副院長） 上野山 文男
うえのやま ぶんお



このたび定年に伴い退任することになりました。在任中は多くの皆様からご支援頂きましたこと、改めてお礼申し上げます。奈良医大が法人化になった平成19年4月に奈良病院から赴任しましたので法人化への苦労や電子カルテの稼働、フィルムレスの運用開始の労については前技師長がすべて担って頂きました。赴任した時は、新しい組織になった戸惑いも無く中央放射線部も一丸となって法人運営に関わって行くという高い意識が感じられました。放射線検査機器等の高額医療機器の導入にあたっては、病院長の決断のもと徹底したスリム化と導入の即時性が行われました。必要な人員も積極的に確保され、放射線治療、CT検査、MR検査等の件数は飛躍的に伸びました。大学として平成23年度には初めて黒字になりました。しかし、背景には診療報酬のプラス改訂もあり、今後の動向によっては厳しい状況になることも考えられるので引き続き気持ちを引き締めることが大切です。法人職員の人材育成や、新棟に向けて新リニアックの許可を含めた安定稼働、MR検査の待ち日数の解消等課題もたくさん残っていますが、今後必ずや達成してくれると思っています。また、法人化になってはじめて看護部長と私もが副院長の大役を仰せつかりました。微力ではありましたが、大役を務めることが出来たのも皆様のおかげです。良好な組織を引き継ぎ、理念にそって附属病院がますます発展することを期待しています。

第2期中期計画が完成しました

前号でお知らせした第2期中期計画（平成25～30年度）が、各役員、中長期計画推進委員会委員をはじめ、学内関係各位のご支援・ご協力により、この度、完成の運びとなり、3月29日に奈良県知事から認可を受けました。

第1期中期計画（平成19～24年度）については、教育・研究・診療の各分野において全教職員が一丸となって取り組んでいただいた結果、医学科の定員増や医科学・看護学大学院修士課程の新設、寄附講座の設置、国内外の大学との連携推進、女性研究者支援センター、国際交流・産学官連携の推進、周産期医療の充実、看護師等医療専門職員の配置拡充、なかよし保育園改築など、多くの成果を上げることができ、経営状況も4年目に黒字に転換し、大きく改善しました。

中期計画は、地方独立行政法人法において、県が議会の議決を経て法人に示す中期目標（法人が6年間で達成すべき目標）を達成するための計画と位置付けられています。第2期中期計画は、県が中期目標において示す行政的観点からの諸ニーズに対応しつつ、本学が、第1期中期計画の成果を継承して、更なる発展、飛躍を実現できるよう、将来を見据えた取り組みを盛り込みました。

計画の概要は下記のとおりですが、第1期と同じく大学の基本的な役割として「教育」「研究」「診療」「法人運営」の各要素を網羅し、この中で、懸案である教育・研究部門の移転計画や臨床医

学研究棟等の改築についても掲げています。また、新たに「地域貢献」と「まちづくり」を柱立てし、県の支援の下、県内公立病院等への医師配置、看護師の県内就職率向上、「医科大学を中心としたまちづくり」への参画などに取り組むこととしています。

教職員の皆さんには、計画の内容を紹介したハンドブックを配付いたしますので、これを活用して趣旨・内容を把握いただき、引き続き、計画達成に向け取り組んでいただきますようお願いいたします。

【第2期中期計画の概要】

- I 地域貢献 <教育関連>
 - ・医師・看護師の県内就職率の向上、適切な医師派遣システムの確立
 - ・地域の看護師のレベルアップ
 <研究関連>
 - ・研究成果等の地域への還元
 <診療関連>
 - ・断らない救急医療体制の構築、周産期医療体制の強化
 - ・他の医療機関との連携強化、県内医療人への助言・指導
- II 教育
 - ・リベラルアーツ教育の実践、医の心をもった医療人育成、医療経営に関する教育の確保
 - ・教育内容の評価
 - ・新キャンパスへの教育部門の移転計画の推進
- III 研究
 - ・研究の適切な成果評価
 - ・有能な研究者の獲得、研究範囲の拡大
 - ・新キャンパスへの研究部門の移転計画の推進
- IV 診療
 - ・医師・看護師等の離職防止
 - ・がん拠点病院としての機能の充実、治療成績・患者満足の一層の向上
 - ・新外来棟への早期改築の立案、老朽・狭隘な臨床医学研究棟等の改築
- V まちづくり
 - ・教育・研究部門移転後の跡地活用
 - ・「医科大学を中心としたまちづくり」への参画
- VI 法人運営
 - ・ガバナンス体制の充実強化
 - ・ワークライフバランスの充実強化
 - ・同窓会・歴代卒業生との連携、繰越欠損金の解消

など

就任挨拶

化学教授就任のご挨拶

化学
教授 酒井 宏水



4月1日付けで本学化学教室教授に着任することになりました。

私は「高分子化学」を基盤とするリポソームや人工赤血球製剤の設計、合成、物理化学的評価、更には医工連携の動物投与試験、血管内の血液の流れや赤血球構造の生理学的意義についての探求など、国際共同研究として経験して参りました。本学では、この「化学」を基に「医療」に役立つ研究を、更に発展させたいと考えております。また教育面では、将来医療に従事することを志す学生のために、化学と医学・医療との関連性を意識しながら、日々進展するライフサイエンス全般の基盤となる基礎化学を学ばせたいと考えております。研究・教育ともに先ずは早く軌道に乗せるよう取り組んでいくとともに、奈良に愛着を感じるようになりたいと思っております。暫くはご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、皆様からご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶と抱負

老年看護学Ⅱ
教授 水主 千鶴子



このたび平成25年4月1日付けで老年看護学Ⅱの教授を拝命しました水主千鶴子でございます。私は和歌山県生まれで、和歌山県立医科大学における教育・研究活動を経て、このたび本学に着任させていただきました。

歴史ある本学において、先輩方の築いてこられた伝統を次の世代に引き継ぐことが私の使命であると心得ておりますが、私の抱負を述べさせていただきます。教育に対する抱負については、学生に高度な専門知識と技術を教授し、最高の質の看護を提供できる看護師を育てたいと考えています。研究に対する抱負については、認知症高齢者の生活の質(QOL)の研究をすすめたいと考えております。本学の発展のために、微力ですがお役に立てるよう精進してまいりますので、皆様のご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成24年度学位授与の状況

次の26名に博士(医学)の学位が授与されました。(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

本審査日 平成24年5月8日(火) 9名

(乙)	大原 賢了	地域健康医学
	佐伯 圭吾	地域健康医学
	浅井 修	内科学第一
	児山 紀子	内科学第二
	藤谷 良太郎	整形外科学
	芳谷 和洋	整形外科学
	添田 哲弘	小児科学
	松本 智子	小児科学
	榎本 泰典	病理診断学

本審査日 平成24年7月10日(火) 2名

(乙)	榎本 浩士	消化器・総合外科学
	田中 忍	中央臨床検査部

本審査日 平成24年11月13日(火) 7名

(甲)	佐野 友美	健康政策医学
	岩村 あさみ	画像診断・低侵襲治療学
(乙)	山田 修一	脳神経外科学
	小川 宗宏	整形外科学
	奥田 真義	整形外科学
	明石 敏昭	放射線医学
	石田 純一	口腔外科学

本審査日 平成25年3月6日(水) 8名

(甲)	永嶌 朋久	精神医学行動神経科学
	梶谷 千香枝	放射線治療専門医養成コース
	小川 浩平	皮膚病態医学
	仲川 洋介	口腔・顎顔面機能制御医学
(乙)	下元 貴澄	分子病理学
	大林 賢史	地域健康医学
	梶原 宏貴	産婦人科学
	藤岡 政行	救急医学

次の9名に修士(医科学)の学位が授与されました。

本審査日 平成25年3月6日(水) 9名

笹川 誉世	分子生体構造科学
宇井 孝爾	微生物感染症学
川崎 忠記	健康政策医学
原野 廣子	健康政策医学
山本 恵美	健康政策医学
和田 千津子	健康政策医学
小西 康司	侵襲制御・生体管理医学
宮崎 尚也	分子・細胞神経科学
西村 和樹	応用医学・医療学

新たな旅立ち

医学部卒業式 大学院修了式 平成 25 年 3 月 15 日

今年も 206 名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。
(206 名:医学科 100 名、看護学科 81 名、大学院博士課程 16 名、同修士課程 9 名) また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

奈良県立医科大学学長賞 医学科 6 年間または看護学科 4 年間の課程で最も優秀な成績を収めた者



医学科 かなおか こうしろう
金岡 幸嗣朗

この度は、このような素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。

入学してからの 6 年間で振り返ると、右も左もわからずに入学した頃が昨日のように思い出され、あっという間に 6 年が経ってしまったように感じます。

大学生活を振り返ると、「人と人とのつながり」が私にとっての大きなテーマであったように思います。講義や実習でお世話になった先生方とのつながり、つらい時や苦しい時に助けてもらった同級生の皆や部活の先輩・後輩とのつながり、病棟実習でたくさんの事を学ばせて頂いた患者さんとのつながり、これまで育ててもらった家族とのつながりなど、挙げるときりがありません。「人と人とのつながり」を意識する程に、今の自分があるのは、多くの人達のお陰であることを実感致します。

4 月からは一医師、一社会人としての生活が待っています。最初は自分の無力を実感するばかりと思いますが、これまでお世話になった多くの人達の思いを背に、たくさんの人達を幸せにできるよう、精進していく所存です。

最後になりましたが、今までお世話になった先生方、先輩、同級生、後輩、そして家族に心から感謝致します。また、医療者の一員として、精一杯努力してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



看護学科 もり めぐみ
森 恵

この度は学長賞という名誉ある賞を頂きありがとうございます。思いもよらない賞を頂き、驚きが、次にうれしさが、そして感謝の気持ちがこみあがっています。

4 年前に大学の門をくぐった時、私には不安しかありませんでした。社会人を経験して 2 度目の大学生活で、同級生とは年齢がかなり離れていること、ペンを持って机に向かうということから、長い期間縁遠くなっていることなどを考えると、とても楽しい学生生活を送れるとは思えませんでした。

実際、講義が始まると、理解できない言葉が並び、講義内容の半分も理解できませんでした。そのような中で、私に力を与えてくれたのは「人」でした。あきらめの早い私に叱咤激励してくれた同級生達、理解できるまで時間のかかる私に根気よく付き合ってくれた先生方や実習指導者の方々、しんどい中で実習の担当をさせて下さった患者さん、勉強をしやすい様に様々な配慮をして下さった大学事務の方々、愚痴の聞き役に徹してくれた友人達、そして、新たな目標を持った私を何も言わずに常に応援してくれた両親といった多くの人々の力を借りて、無事に卒業を迎えることができました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

私にとって、この 4 年間は、勉強できることの幸せ、自分を支えてくれている人達の存在、そのありがたさを実感することができた貴重な時間でした。今後は、これまで受けた恩を、患者さんや地域に返していけるように努めて参りたいと思います。

奈良県立医科大学学長特別賞 医学教育または看護学教育の課程において極めて優秀な成績を収めた者



医学科 みやざき ゆか
宮崎 由佳

このたびは「学長特別賞」を頂きまして、大変驚くとともに、光栄に存じます。

私は大学に入った頃は、どちらかというところ基礎医学に興味があり、基礎医学の方に進みたいと考えておりました。しかし、実際に臨床課程に入ると基礎医学で勉強したことが臨床で応用されており、互いに関連していることを実感し、臨床医学の勉強も楽しくなりました。そのことによって、この栄えある賞を頂けたのではないかと思います。誠にありがとうございました。

学生生活が終わり、これから医師としての生活が待っていますが、まだまだ第 1 歩を踏み出したばかり、先生方の言葉を胸に日々精進し、先生方、諸先輩方、クラスメイトとのつながりを大切に頑張る所存です。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。



看護学科 なかみ ゆくこ
中見 郁子

このたびは「学長特別賞」をいただき、大変光栄に存じます。

社会経験の後、一大決心をして受験・入学致しましたが、入学当初は、一回り以上も離れた同級生達や熱心な元社会人の同級生達についていけるかと不安でいっぱいでした。

私は頭も要領も特別よい方ではないので、ゆっくりでも一つ一つ理解しながら学習を進めるように努めました。同級生が熱心に学業に取り組む姿勢は私の励みとなり、数多くの困難な時には、先生方をはじめ、先輩、同級生、後輩、家族に支えられ、前を向き続けていられたと思います。支えてくださった皆様に心より感謝致します。

学生生活も終わり、これからは看護師として社会生活を始めますが、日々自己研鑽に励み、今後は私も周囲の支えとなれますよう、精進していきたいと思っています。

医学科同窓会敵糧賞、看護学科同窓会華糧賞

1. クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者 (ヒーローオブザクラス)
2. ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
3. クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

敵糧賞: にしたに けんた 西谷 健太 さかい さとし 阪井 諭史 むとう みき 武藤 美紀
 華糧賞: さかた いくお 坂田 郁夫 かつらがわ のりこ 桂川 典子

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞



なかがわ ようすけ
仲川 洋介

この度は、研究奨励賞という素晴らしい賞を頂き誠に光栄に存じます。

多くの先生方に御指導いただいたお陰であり、感謝しております。特に、口腔外科学講座の桐田忠昭教授、梶原淳久先生、放射線腫瘍医学講座の長谷川正俊教授、大西武雄特任教授には、大変お世話になり深く御礼申し上げます。

私は大学卒業後、生まれ育った大好きな奈良県で働きたいとの思いで奈良県立医大にて臨床研修を受け、平成 21 年 4 月に大学院へ進学しました。

甲学位論文申請者のうち、最も優れた論文の申請者

大学院での4年間、複数の研究テーマを並行して進めましたが、今回の学位論文となったテーマは、「高 LET 放射線である重粒子線が、低 LET 放射線である X 線よりも効率の良い p53 非依存的アポトーシス誘導をもたらすメカニズムの解明」でありました。重粒子線の照射に関しては、千葉県にある放射線医学総合研究所で行い解析を進めた結果、「重粒子線による Akt をはじめとする生存シグナルタンパク群の量的・質的な抑制により、効率の良い p53 非依存的アポトーシス誘導と細胞周期の停止がもたらされる」との新しい知見を得ることが出来ました。

一つ一つの研究成果の積み重ねが、将来の新たな診断や治療に結びついていくことを期待し、これからも研究に励んでまいりたいと思います。

(教育支援課)

平成 25 年度入学試験を実施しました

20 年後のトップ 10 入りをめざして、本学は研究・教育・診療の様々な分野で努力を行っていますが、その一つとして、優秀な学生を獲得するため、平成 25 年度から医学部医学科の入学試験を大きく変更しました。

国公立大学の入学試験は推薦選抜と一般選抜がありますが、一般選抜は個別学力検査が前期日程（2 月下旬実施）と後期日程（3 月上旬）に分かれて実施されています。ところが同じ受験生が前期も後期も受験するケースが増えているため、医学部医学科の入学試験は、全国的に後期日程を廃止して前期日程に一本化する傾向が強くなっており、近畿圏の国公立大学医学部で後期日程を行っているのは大阪大学と本学だけです。

本学医学科はやる気に満ちた優秀な学生を求めため、この流れとは逆に「後期日程重視」（後期日程の募集人員を 20 名から 53 名に増員）の入学試験を平成 25 年度から実施することにしました。

さらに、受験生の学力を客観的に評価するため、従来は推薦選抜と一般選抜（後期日程）で実施していた小論文試験を廃止し、全ての入学試験区分にお



いて、学科試験（数学、英語、理科（化学、生物、物理：一般選抜（後期日程は 2 科目選択、他は 1 科目選択））を行うことにしました。なお、推薦選抜試験、一般選抜試験（前期日程）の学科試験は 3 時間の試験時間内で「数学」「英語」「理科（一科目）」を解答する方式で、これを「トリアージによる奈良医大入試方式」としています。

これらの変更を行った結果、平成 25 年度入学試験の志願者は前年度の約 2 倍となり、難関を突破した精鋭 113 名を迎えることができました。

一方、看護学科においても、一般選抜（後期日程（地域枠））では前年度よりも志願者が増加しました。また、24 年度から推薦選抜試験（地域枠）の募集人員を 30 名（5 名増）に増員するとともに、第 3 年次編入学についても平成 25 年度からは地域枠の 5 名のみを募集するなど地域医療に貢献する意欲を持った学生を広く集めています。



入学試験実施には全学を挙げて万全の取り組みが必要です。平成 26 年度の入学試験準備はもう始まっています。教職員の皆様のご協力をお願いします。

平成 25 年度入試結果

区分		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (B の内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率	(参考) 24 年度募集人員
医学科	推薦 (緊急医師確保)	13	128	118	13	0	13	9.8	13.2	13
	推薦 (地域枠)	25	196	189	25	0	25	7.8	7.8	15
	前期	22	266	239	23	1	22	11.6	6.7	65
	後期	53	1312	413	58	5	53	22.6	19.6	20
	小計	113	1902	959	119	6	113	16.0	9.1	113
医学部	推薦	30	69	69	31	0	31	2.2	2.6	30
	社会人	5	17	14	6	2	4	2.8	2.8	5
	前期	40	142	137	40	0	40	3.6	3.0	40
	後期 (地域枠)	10	100	61	13	3	10	7.7	4.8	10
	編入学 (地域枠)	5	13	13	7	2	5	1.9	1.9	10
	小計	90	341	294	97	7	90	3.5	3.6	95
合計		203	2243	1253	216	13	203	10.4	4.2	208

私たちはこんな1年を送ります ~平成25年度学事計画~

医学科 1学年	
4/4 (木)	入学式
4/4 (木)~5 (金)	新入生オリエンテーション
4/8 (月)	授業開始
未定	AED+BLS 講習 (予定)
5/15 (水)	開学記念日
未定	施設見学 (学内・院内)
7/22 (月)~9/15 (日)	夏季休業
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/24 (水)~10/7 (月)	前期定期試験
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
1/29 (水)~2/12 (水)	後期定期試験
2/17 (月)~3/14 (金)	医学特別実習 (5日間)
2/17 (月)~3/14 (金)	社会体験実習 (3日間)
3/24 (月)~4/13 (日)	春季休業

医学科 2学年	
4/8 (月)	授業開始
5/15 (水)	開学記念日
7/22 (月)~9/15 (日)	夏季休業
7/22 (水)~9/6 (金)	救急自動車同乗体験実習 (1~2日間)
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/24 (水)~10/4 (金)	前期定期試験 (一般)
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
12/13 (金)~20 (金)	基礎医学I TBL
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
1/6 (月)~30 (木)	後期定期試験 (基礎)
1/31 (金)	後期定期試験 (一般)
3/24 (月)~4/13 (日)	春季休業

医学科 3学年	
4/8 (月)	授業開始
4/8 (月)~7/8 (月)	コンソーシアム実習
4/8 (月)~7/8 (月)	地域基盤型学習
5/15 (水)	開学記念日
7/22 (月)~9/15 (日)	夏季休業
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/20 (金)	前期定期試験 (一般)
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
11/18 (月)~12/20 (金)	後期定期試験 (基礎)
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
3/24 (月)~4/13 (日)	春季休業

医学科 4学年	
4/8 (月)~5/23 (木)	第1ブロック (授業)
5/15 (水)	開学記念日
5/24 (金)~5/31 (金)	第1ブロック (試験)
6/3 (月)~9/18 (水)	第2ブロック (授業)
7/22 (月)~9/15 (日)	夏季休業
9/19 (木)~27 (金)	第2ブロック (試験)
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/30 (月)~12/13 (金)	第3ブロック (授業)
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
11/25 (月)~29 (金)	社会フィールド系実習 (法医学)
12/6 (金)~2/14 (金)	基本的臨床手技
12/16 (月)~20 (金)	第3ブロック (試験)
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
12/25 (水)、26 (木)	CBT
1/6 (月)~24 (金)	研究室配属
1/27 (月)~30 (木)	社会フィールド系実習 (衛生学・公衆衛生学II)
2/3 (月)~14 (金)	実践的医療倫理
2/13 (木)	社会フィールド実習報告
2/15 (土)	OSCE
2/17 (月)~21 (金)	BSL オリエンテーション
2/24 (月)~3/21 (金)	BSL 第1ブロック
3/24 (月)~4/6 (日)	春季休業

医学科 5学年	
2/25 (月)~5/24 (金)	BSL 第1ブロック
5/15 (水)	開学記念日
5/27 (月)~9/13 (金)	BSL 第2ブロック
7/22 (月)~9/1 (日)	夏季休業
9/2 (月)~11/22 (金)	BSL 第3ブロック
9/19 (木)	解剖慰霊祭
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
11/25 (月)~2/14 (金)	BSL 第4ブロック
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
2/17 (月)~28 (金)	臨床医学 TBL
3/3 (月)~28 (金)	学内4週間選択実習 第1ブロック
3/31 (月)~4/6 (日)	春季休業

医学科 6学年	
4/8 (月)~5/3 (金)	学内4週間選択実習 第2ブロック
4/8 (月)~6/28 (金)	クリニカルクラークシップ (4週間)
5/6 (月)~5/31 (金)	学内4週間選択実習 第3ブロック
5/7 (水)~7/5 (金)	地域医療体験実習 (4日間)
5/15 (水)	開学記念日
6/3 (月)~6/28 (金)	学内4週間選択実習 第4ブロック
7/11 (木)	PBL 症例報告会
9/2 (月)~6 (金)	卒業試験 (第1ブロック)
9/19 (木)	解剖慰霊祭
10/2 (水)~7 (月)	卒業試験 (第2ブロック)
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
11/1 (金)~8 (金)	卒業試験 (第3ブロック)
未定	医師国家試験
3/17 (月)	卒業式 (予定)



看護学科 1学年	
4/4 (木)	入学式
4/5 (金)	新入生ガイダンス
4/8 (月)	前期授業開始
5/15 (水)	開学記念日
7/16 (水)	前期終講
7/22 (月)~29 (月)	前期試験
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/27 (金)	後期授業開始
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
1/27 (月)	後期終講
2/3 (月)~10 (月)	後期試験
3/24 (月)~4/6 (日)	春季休業

看護学科 2~4学年	
4/8 (月)	前期授業開始
5/15 (水)	開学記念日
7/16 (水)	前期終講
7/22 (月)~29 (月)	前期試験
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/27 (金)	後期授業開始
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
1/27 (月)	後期終講
2/3 (月)~10 (月)	後期試験
未定	保健師国家試験
未定	看護師国家試験
3/17 (月)	卒業式 (予定)
3/24 (月)~4/6 (日)	春季休業

看護学科 編入3~4学年	
4/4 (木)	入学式
4/5 (金)	新入生ガイダンス
4/8 (月)	前期授業開始
5/15 (水)	開学記念日
7/16 (水)	前期終講
7/22 (月)~29 (月)	前期試験
9/19 (木)	解剖慰霊祭
9/27 (金)	後期授業開始
10/25 (金)~27 (日)	大学祭
12/23 (月)~1/5 (日)	冬季休業
1/27 (月)	後期終講
2/3 (月)~10 (月)	後期試験
3/17 (月)	卒業式 (予定)
3/24 (月)~4/6 (日)	春季休業

クラブ紹介



女子バレーボール部

「キャラのサラダボウル」

部員 ▶ プレイヤー 22人 マネージャー 1人

顧問 ▶ 嶋 緑倫 (小児科学教授)

キャプテン ▶ 小熊 博子 (医学科4年)

北川 絵美子 (看護学科3年)

活動日 ▶ 月、水、木 or 土 (週3回)

こんにちは。私たち写真部は、皮膚科学教授の浅田先生に顧問をしていただき、年に数回、撮影会に出かけ、思い思いの写真を撮っています！長谷寺に牡丹の撮影に行ったりと、季節のものを撮りに行くことが多いです。一時は、部員が撮影した写真を持ち寄って、学祭などで写真展を開いたり、現像を自分たちでしたりしていました！写真部の部室には現像の機械がそろっています！

活動への参加は強制ではなく、誰かが呼びかけると、参加できる部員が集まって活動しています。なので、他の部活動と兼部している部員が多いです。まったりと楽しく活動している、とても居心地の良い部活です。学部学科学年を問わず、写真好きの人もそうでない人も、色々な人が自分の好きな形で活動しています。写真を撮るのが得意でなくても大丈夫です。

最近では、活動の回数がかなり減ってしまっていますが、新歓・追いコンなど、声をかければ、部員が集まり、OB・OGの方も来てくださり、大いに盛り上がっています♪不思議なタイミングではありますが、去年の追いコンでは、新たに3人(看護科1年生2人、医学科5年生1人)が入部してくれました！今年の春には、みんなで特急に乗って、吉野に桜を撮影に行きます。また、かつてのように、写真展も開こうと考えています。これからは活動をもう少し増やして、さらに写真部を

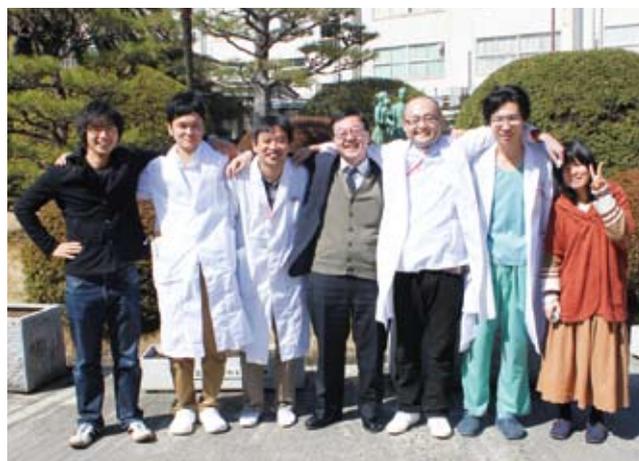
奈良県立医科大学女子バレーボール部は医学科チーム、看護学科チーム合同で練習しています。医学科チームは2年2人、3年4人、4年2人、5年2人、6年2人の計12人、看護学科チームは2年6人、3年3人、4年1人、マネージャー1人の計11人で活動しています。練習場所は奈良医大体育館で、練習時間は主に2時間弱ですが、集中的に効率良く、内容の濃い練習をしています。

今年の公式戦では、西日本医科学生総合体育大会で準優勝、近畿医科学生体育大会で準優勝、近畿医療系体育大会で第3位、新人戦で第3位という結果を収めています。来年度のすべての大会で優勝することを目標に日々練習に励んでいます。

奈良医大女バレは強いですが、初心者もたくさんいて、先輩から基礎からしっかり教えてもらえるので、みんな上手くなっています。もちろん経験者も、基礎の見直しからするので、全員でレベルアップできます。

また、色んな性格の子がいて楽しいクラブです。練習以外でも、ホームパーティーをしたり、旅行やキャンプ、男バレと一緒にBBQをしたり楽しいことがたくさんあります！みんなバレーが大好きで仲良しなクラブです！！

バレーに興味ある方、楽しいことが大好きな方、是非とも一度体育館に遊びに来てください！！



写真部

「まったり日なた部」

部員 ▶ 15名

顧問 ▶ 浅田 秀夫 (皮膚科学教授)

部長 ▶ 文省太 (5年)

活動内容 ▶ 撮影会、写真展

練習日 ▶ 不定期

盛り上げていきたいと思っています！写真部はこれからもほんわかまったりと活動していくので、よろしくお祈りします！

図書館だより

新連載 図書館利用の基礎知識

第1回 人類の英知を十に分類：日本十進分類法のご紹介

日頃、図書館を利用させていただき上で、知っているとお便利なお話を毎回ご紹介していきます。

図書館資料のキホンと言えばもちろん「(単行)本」ですが、どのように並んでいるか知っていますか？

だいたい同じ分野のものが固まって並んでいるようなイメージであれば正解です。ただ、さらに言うと、同じ分野のものをただ横並びにしているのではなく、ある体系に基づいて並べられているのです。その代表的な体系が「日本十進分類法(Nippon Decimal Classification、以下NDC)」というものです。1929年に初版が刊行され、最新版は1995年に刊行された新訂9版です。まず、0～9の区分(类目)に分けられ、その下位に10種の概念(綱目)、さらに下位(要目)に10種と広がっていきます。分類は基本的に3桁で表され、それより細かい項目はピリオドで区切って小数的につけています(小目)。こうして分類された記号がそれぞれの本の主題に沿ってつけられています。

当館では、この分類記号をハイフンで区切り、著者名(ローマ字)の最初の3文字で表した「著者記号」と組み合わせ「請求記号」と呼び、請求記号順に書架に並べています。例)ハリソン内科学[493-Har](図1)。この請求記号が本を探す際の重要な情報となります。請求記号は本の背に貼っているラベルに書かれています。当館のOPAC(オンライン蔵書目録)



図1

でヒットした本を探すときには、書架の場所とこの請求記号を必ずメモしてください。

当館所蔵の本の大半は「49」から始まっていますが、类目「4」(自然科学)の中の綱目「9」が「医学・薬学」の分類記号だからです。ちなみに記号なので493の読み方は「よんひゃくきゅうじゅうさん」ではなく、「よんきゅうさん」です(表1)。

また、各図書館によって扱う資料の内容に傾向があり、NDCだけでは不十分な場合はオリジナルの分類を使用する図書館も多くあります。当館では看護学分野の本(NDCでは492.9のみ)にはオリジナルの分類を使っています。Nursingの「N」から始まる番号です。以前から使っていた看護図書分類が授業カリキュラムに沿わないという声を受け、2012年から新看護図書分類に移

行しました(表2)。現在、旧看護図書分類のものを新分類に付け替えているところです。

NDCを覚えなくても、興味のある主題の分類番号(医学なら490)を覚えておけば、公共図書館などでも目的にあった本にたどり着きやすくなります。特に、書名の記憶があいまいな本や特定主題に関連した本を探すときに真価を発揮します。OPACを使って書名から資料を探すのもいいですが、たまには請求記号をたどってみたいかがでしょうか?意外な発見があるかも知れません。

表1 日本十進分類法

(类目)	(綱目)	(要目)
0 総記	40 自然科学	490 医学・薬学
1 哲学	41 数学	491 基礎医学
2 歴史	42 物理学	492 臨床医学
3 社会科学	43 化学	493 内科学
4 自然科学	44 天文学	494 外科学
5 技術	45 地球科学	495 婦人科学
6 産業	46 生物科学	496 眼科学・耳鼻咽喉科学
7 芸術	47 植物学	497 歯科学
8 言語	48 動物学	498 衛生学
9 文学	49 医学・薬学	499 薬学

表2 看護図書分類 (奈良医大オリジナル)

N1 看護思想・哲学	N5 基礎看護学	N11 老年看護学
N1.1 看護統計学	N6 状態別看護	N12 地域看護学
N2 参考図書	N7 母性看護学	N13 看護行政
N3 シリーズ	N8 成人看護学	N14 医学(看護職向け)
N4 看護研究	N9 精神看護学	
N4.1 国家試験	N10 小児看護学	

教務事務システムが稼働します

システムのハード・ソフト両面の整備を進めてきました「教務事務システム」が本格稼働します。

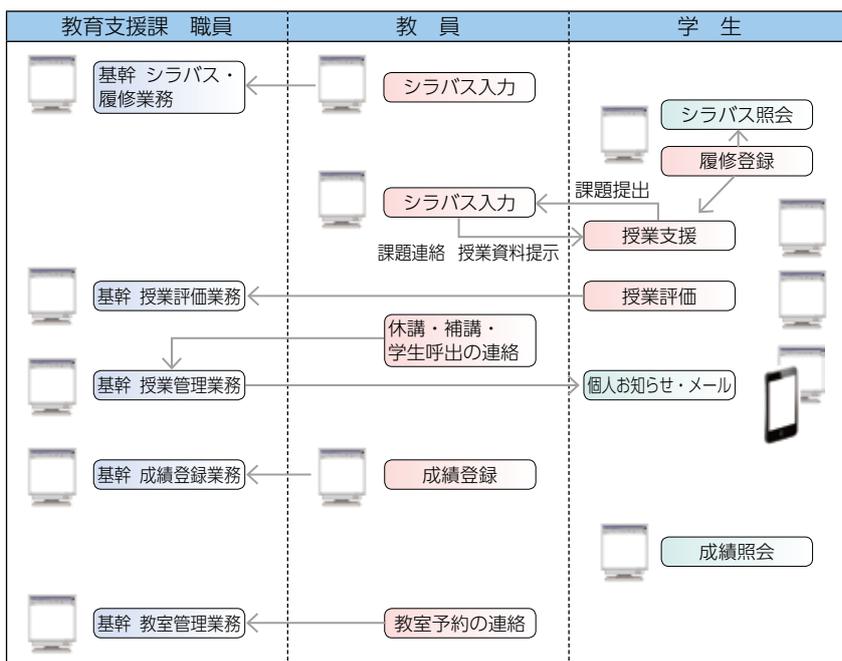


このシステムでは教員、学生、教育支援課がオンラインで結ばれるので、情報の受発信が迅速かつ正確に行えます。

学生は履修登録、成績照会、レポートの提出等を、教員はシラバスの入力、成績登録、授業資料の提示をパソコンで行うことができます。また、休講や呼び出し等は学生のパソコン・スマートフォンに直接連絡されますので、学生はどこでもこれらの情報を確認することができます。

各人がこれらの機能を上手に活用し、教育環境が一層、向上することを目指しています。

【全体図】



法人の企画・運営に関するアイデア募集の結果報告

昨年11月7日付けで募集いたしました「法人の企画・運営に関するアイデアの募集」につきましては、55項目のご提案をいただきました。

ご提案のあった内容については、すぐに実施できるもの、検討を要するもの、実施が難しいものなど様々ござ

いしましたが、早期着手が可能なもので予算が必要な提案については、平成25年度に予算化するなど、ご提案のあった内容をできるだけ多く法人運営に活かしていきたいと思っておりますので、教職員の皆様の引き続きのご協力をお願いします。

主な提案内容

- 大学正門前、大学本部棟前の改修・整備 (事務職)
- 学生のボランティア活動の推進・助成・管理体制の確立 (事務職)
- 出張旅費について (看護職)
- 在宅消耗品の払い出しについて (看護職)
- 病院概要の作成 (事務職)
- 大学公式パンフレットの作成 (事務職)
- 奈良医大のマスコット (キャラクター) 作成及び広報活動 (看護職・事務職)
- 「大学統一フォーマットの名刺」作成について (教員)
- 地域密着型医療人育成プロジェクト (教員)
- 採用内定者と職員の交流会の実施 (事務職)
- 附属病院外来待ち時間の改善 (教員)
- その他組織運営体制の見直しや業務改善 (各職種) など

平成 25 年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成 25 年度は、第 2 期中期計画のスタートの年度であり、計画の遂行に配慮した予算編成を行いました。収入は、新たに県から交付される中期目標達成促進補助金約 4 億円のほか、新棟建設関連で補助金収入や長期借入金収入がそれぞれ約 10 億円の増、附属病院収入が約 9 億円の増、また支出は、第 2 期中期計画を反映して、施設整備費が約 22 億円の増、診療経費が約 7 億円の増など支出・収入とも 38 億 3,900 万円増加し、予算総額が 401 億 5,230 万円となりました。

法人化初年度に 268 億 1,100 万円から出発した法人の予算も、約 1.5 倍の 400 億円を突破するに至り、法人の意義と責任は益々大きくなっています。

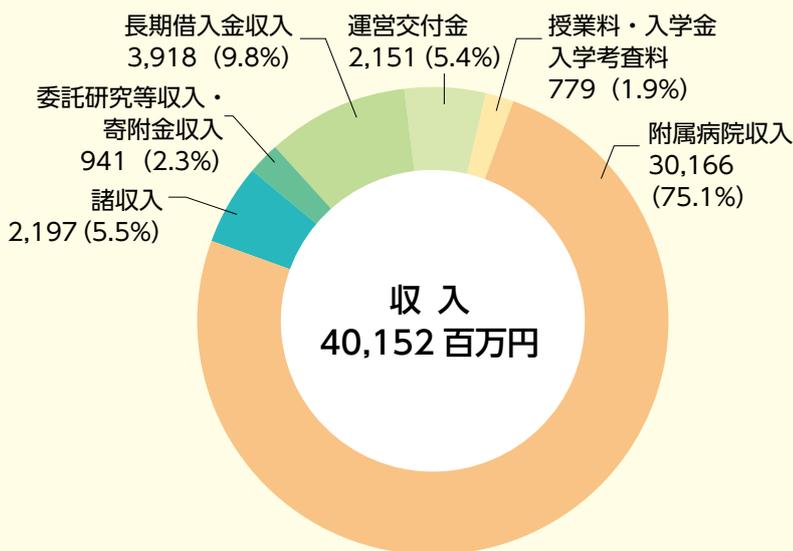
25 年度の主な取り組みとして、第 1 期の竣工に向けて附属病院の新棟の整備を継続するとともに、教育・研究部門等の新キャンパスへの移転推進、臨床医学研究棟の改築推進、キャンパス移転後の附属病院整備構想策定など、法人の将来を見据えた取り組みを行います。

また教育・研究環境の充実や附属病院の院内環境の改善等も引き続き実施します。

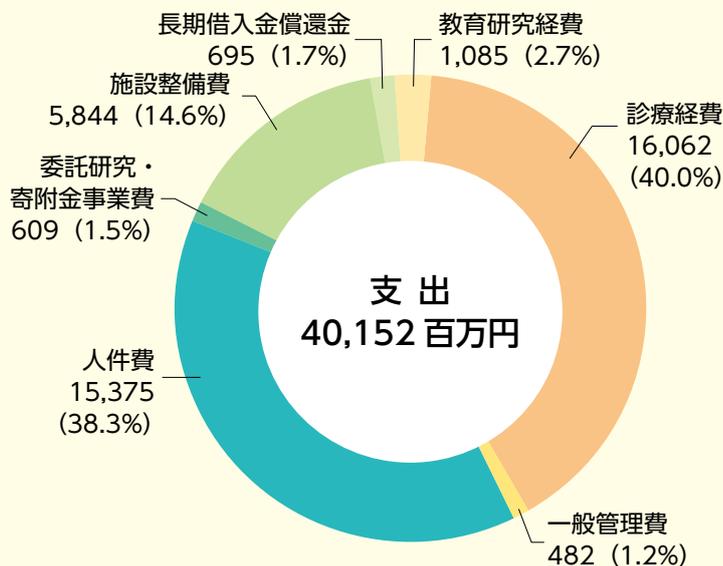
法人の更なる発展のため、効果的な投資を行っていく一方で、引き続き経営改善に向けた取り組みを進めて参りますので、教職員のみなさんには、それぞれの分野でのご協力をよろしく申し上げます。

平成 25 年度予算の構成内訳

予算総額：40,152,300 千円 (対前年比 3,838,780 千円、10.6%増)



- ### 収入
- 運営費交付金等**
法人の効率的で安定的な運営を確保するため、県から交付されるもの
 - 授業料・入学金・入学考査料等**
大学・大学院授業料及び入学金など
 - 附属病院収入**
診療報酬、診断書手数料など
 - 諸収入**
駐車場収入、国庫補助金など
 - 受託研究等収入・寄附金収入**
外部からの資金
 - 長期借入金収入**
施設整備や医療機器の整備に関する借入金



- ### 支出
- 教育研究経費**
教育関係費、研究関係費、図書館の経費など
 - 診療経費**
医薬材料費、医事委託費、機器保守経費など
 - 一般管理費**
火災保険、銀行手数料など法人運営に関する経費
 - 受託研究・寄附金事業費**
寄附講座、寄附金・受託収入による研究事業経費
 - 施設整備費**
新棟整備、医療機器及び大学・病院施設改修など
 - 長期借入金償還金**
施設整備や医療機器の整備に関する借入金の返済費用

平成 25 年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

(適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上)

New 中期計画各センターの設立準備 25,000 千円
中期目標に掲げられた 13 のセンター・委員会の設立準備経費

- ・(仮称) 県立医大医師派遣センター
- ・(仮称) 県費奨学生配置センター
県内の医師派遣システム構築のため、上記センターの設立を準備
- ・(仮称) 看護実践・キャリア支援センター
看護師の県内病院等への定着率向上のため、上記センターの設立を準備
- ・その他 10 センター・委員会



教育部門

(学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保)

- 学生アメニティ向上事業
13,600 千円 (H24 17,000 千円)
学生が利用する学内施設設備等の整備や課外活動の支援など、学生生活の向上を図る

- 研究医養成コースの運営
17,600 千円 (H24 5,900 千円)
基礎・社会医学の分野における研究者、医学教育者を養成するための「研究医養成コース」の運営



研究部門

(研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実)

New 研究活動への助成 15,000 千円
全学的・横断的共同研究への助成制度及び若手研究者への助成制度の創設

- 大型研究用備品の更新
78,000 千円 (H24 78,000 千円)
総合研究棟に設置されている大型共用研究備品が老朽化しているため、整備計画に基づき、年次的に更新



診療部門

(法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実)

- 新棟整備事業
4,156,600 千円 (H24 1,412,450 千円)
中南和地域における高度医療拠点病院として機能充実を図るため、新棟を整備 (平成 25 年度に第 1 期竣工)
※リニアック等医療用備品の購入を含む

- 新棟整備関連アメニティ整備
184,000 千円 (H24 142,907 千円)
通路棟の改修、看護師宿舍改修 (スキルスラボ等の整備)

- 患者アメニティ向上事業
50,000 千円 (H24 50,000 千円)
病院玄関の屋根・照明改修、B C 棟廊下改修

- 医療用備品の整備
1,147,000 千円 (H24 796,000 千円)
県からの長期借入金等を財源とし、総額 10 億円の医療用備品整備枠を確保



まちづくり

(医科大学を中心としたまちづくりの推進)

New 大学移転推進事業 27,000 千円
新キャンパスへの移転計画の推進、老朽化施設の整備
コンストラクション・マネジメント業務委託



管理部門

(法人組織の円滑な運営・福利厚生充実、事務の合理化の推進)

- 保育所運営の充実
57,300 千円 (H24 42,730 千円)
「なかよし保育園」の定員増を図り、保育ニーズに対応

- 看護師の確保対策
140,000 千円 (H24 32,628 千円)
看護師採用内定者に対して、就職支度金を貸与する制度を導入するなど、引き続き看護師確保に向けた取組を継続

- 情報システムの整備・運営
23,500 千円 (H24 22,542 千円)
学内 LAN の基幹ネットワーク機器の更新、情報セキュリティの強化

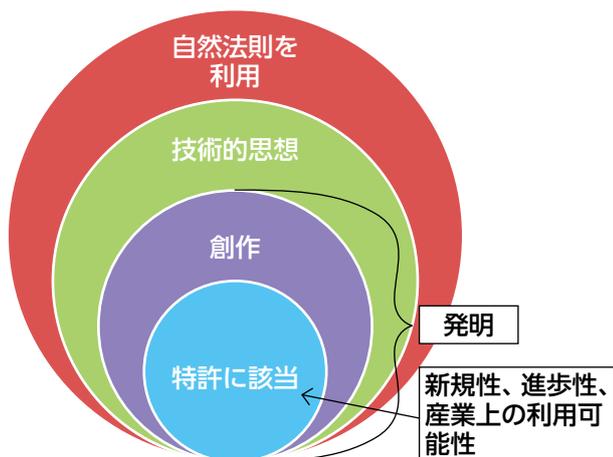
New 大学機関別認証評価の受審 5,500 千円
学校教育法で 7 年以内ごとの受審が義務づけられている大学機関別認証評価を平成 25 年度に受審

産学官連携だより

⑤ 発明とは？

発明とは？この解説を書くことは専門家でも困難であることを自覚していますが、本学の教職員の発明に対する関心が高まることを願い、勇気をもってチャレンジします。

特許に関する書籍では多くの場合、法律の定義をよりどころとして解説しています。我が国の特許法第2条で「この法律で『発明』とは、自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度のものをいう。」と定義されています。この条文を分解・解釈していくと、「自然法則を利用した」「技術的思想」「の創作」「のうち高度のもの」に分解できます。「のうち高度のもの」は、一般的に実用新案法における考案との区別のために設けられていると考えられており、発明には[自然法則を利用]、[技術的思想]、[創作]の要件が必要ということになります。以下に発明の概念を図示して考察します。



※我が国の特許法における発明の概念図

【自然法則を利用】

自然法則とは、より具体的には、物理学・化学・生物学等の法則になります。かの発明王エジソンが発明した白熱電球や蓄音機は、間違いなく自然法則を利用したもので発明の要件の一つを満たしているといえます。しかし、Ωの法則といった自然法則自体、物質、遺伝子等を新たに発見しただけでは、利用しているとは言えません。また、経済法則を利用していたとしても、経済法則は自然法則ではないので要件を満たしません。さらに、信号機による車両規制、列車の運行ダイヤといった人為的な取り決めも自然法則を利用していません。換言するならば、「科学の内の自然科学における研究成果の利用」と言えるのではないのでしょうか。

【技術的思想】

技術とは課題解決のための手段であって、その手段を思想（アイデア）として他人に伝えることができる客観性がなければ、技術的思想とはいえません。従って、熟練工が長年の経験で習得した所謂“神の手”的な特殊技能は、これに該当しないこととなります。また、絵画・彫刻等の美的創造物、遺伝子情報を羅列といった単なる情報の提示もこれに該当しません。

【創作】

特許法第2条での創作とは、発明時を基準として考えられ、しかも主観的に新しいと意識したものという程度の軽い意味であると考えられます。（特許権として認められるには、別の条文に基づく新規性及び進歩性の要件を満たす必要があります。）

以上が発明の概念になりますが、発明≠特許権であることにご注意ください。特許法により独占的排他権としての特許権が認められるには、国家権力（特許庁）により特許登録されなければならない、そのためには、新規性、進歩性、産業上利用できるものであるという要件を備えなければなりません。ヒトを手術、治療又は診断する方法は産業上利用できるものに該当しないとして取り扱われ、我が国では特許権の対象となっていませんが、治療に使用する薬剤や医療機器そのものは特許権の対象になります。

特許となる発明は、以下の事項で大雑把に把握することができると思います。

【発明把握の方法】

- ①目的：治療の対象となる疾患は？従前の手段における課題は何？
- ②構成：目的を解決するための手段は何（化学物質、遺伝子、蛋白質、抗体 etc）か？いかなる手順又は機構か？
- ③効果：従前の手段と比べてどうか？

研究者の皆さん、研究の成果を特許の視点から見つめなおしてみてください。

そして、何か疑問に思ったときは、産学官連携推進センター（連絡先：内線 2481 産学官連携推進センター 大野特任教授 又は、内線 2552 事務局担当：米坂、井村、高島）に疑問を投げかけてください。

総合研究棟開設 20 周年記念事業

大阪大学免疫学フロンティア研究センター長 **あきら 審良** **しずお 静男** 先生来たる

平成 25 年 5 月 13 日 (月) 17 時～ 記念講演

総合研究棟は、平成 5 年 11 月に学内に分散していた動物実験施設、組換え DNA 実験施設、ラジオアイソトープ実験施設と大学院中央研究施設（現、大学共同研究施設）を統合整備し、高度の研究と医療を通じて、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与するために設置され

来、独創的で先端的な研究を推進し、大学の横断的な研究の拠点としての役割を果たしてきました。

総合研究棟開設 20 周年を記念し、大阪大学の審良先生を招き、記念講演を行っていただきます。

(教育支援課)

チェンマイ大学との交流

平成 25 年 2 月 20 日～ 2 月 28 日までの 9 日間、タイのチェンマイ大学医学部から 4 名の学生が来学しました。学生たちは眼科学、消化器・総合外科学、産婦人科学、小児科学、第一内科学、救急医学の 6 教室で研修するとともに、本学学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の皆様方、本当にありがとうございました。

また、本学からは 4 名の学生が 3 月 31 日～ 4 月 7 日までの 8 日間、チェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行う予定となっています。

これらは、本学とチェンマイ大学との間で締結された学術交流協定（1996 年）に基づくもので、今回の受入・派遣で 14 回目となります。今年も 11 月頃に派遣学生

の募集を行いますので積極的な参加を期待します。



前列：左より Mr. Suthavee Pangkanon、Ms. Pimsiri Anansiripun、Ms. Thorfun Treewatanakul、Ms. Preeyada Laothong

後列：左より北野泰斗、古山達大、吉岡学長、喜多医学部長、矢野優太、藤本浩輔（全学生 H 25 年度 6 年生）

(総務課)

なかよし保育園に「砂あそび場」ができました!! ～「国際ソロプチミスト奈良-あすか」様から寄贈～

なかよし保育園 園長 岡山 弘美

「国際ソロプチミスト奈良-あすか」は、女性支援を目的として活動されている団体です。このたび、昭和 62 年(1987 年)の発足から 25 年になることを記念して、働く女性の子育て支援-子どもに豊かな未来を-を奉仕のテーマとして、奈良県立医科大学で働く女性のための子育て支援施設であるなかよし保育園に、「砂場セット」(約 100 万円相当)を寄贈いただきました。

去る 3 月 7 日に、認証 25 年記念お祝い会が橿原ロイヤル



ホテルで盛大に開催され、本学からは吉岡理事長と出席しました。その会の中で、田中会長から目録の贈呈がありました。

寄贈にあたっては、当保育園をご見学頂き、その際、「砂あそび場」があったらより充実した保育園になるということで、「砂場セット」が品目として選ばれました。

砂遊びは、創造性豊かな子どもを育てることに役立ちます。「空想あそび」や「ごっこあそび」から友だちとのコミュニケーションができ、社会性も広がり、そして情緒の安定にもつながります。今後とも、「砂あそび場」やその他の設備を積極的



に活用し、充実した保育園の運営を進めてまいります。

今回、寄贈いただきました「国際ソロプチミスト奈良-あすか」様に心より感謝申し上げます。

大和漢方医学薬学講演会を開催しました



2月14日(木)、厳糧会館大ホールにおいて本学主催、奈良県漢方プロジェクトチーム共催による「大和漢方医学薬学講演会」を開催しました。本会は、日常診療に役立つ漢方エビデンスを紹介し、さらに奈良から漢方エビデンスを発信するための研究プランについての意見交換の場を提供するものとして計画されました。本学客員教授でもある渡辺賢治慶應義塾大学医学部漢方医学センター副センター長から「奈良から漢方エビデンスを作る(今から、ここから)」と題して、漢方エビデンスの過去の歴史、現在の取り組み、これからの方向性について、また、漢方に関する奈良の強みなどについてご講演をいただきました。会場は本学関係者をはじめ、他学の研究者、奈良県漢方プロジェクト関係者及び製薬

企業関係者等約120人が参加し、会場は立錐の余地もないほどの盛況となりました。

渡辺先生は講演を「奈良から漢方エビデンスを作る、今から、ここから、自分たちで、仲間と」と締めくくられ、会場からは今後の漢方診療や生薬栽培に関する期待感などから幅広い意見が出され、活発な議論が行われるなど、漢方への関心の高さがうかがわれる講演会となりました。



平成24年度後期 公開講座「くらしと医学」を開催しました

24年度後期の公開講座を、2月16日(土)に奈良市のなら100年会館大ホールにて開催しました。

平成6年度から始まったこの講座も、今回で30回目となり、今回初めて、なら100年会館で開催をしました。

当日は、昨年度を大きく上回る、約650名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。



吉岡学長

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。25年度前期の予定は下記のとおりです。



入江教授

●吉岡章学長あいさつ

●講演

①入江 安子講師(公衆衛生看護学)
「地域の"ちから"の発見
～コミュニティレジリエンスとは～」
(座長:松井 美帆教授)



國安教授

②國安 弘基教授(分子病理学)
「食事とがん ～大腸がんの話～」
(座長:車谷 典男教授)



岸本教授

③岸本 年史教授(精神医学)
「防ぎたいうつ病、認知症」
(座長:國安 弘基教授)

～次回公開講座の予定～

- 日程/平成25年9月7日(土)
- 時間/13:00～15:30
- 場所/奈良県橿原文化会館 大ホール

「医学教育講演会」 文部科学省医学教育課課長 村田善則氏を迎えて

教育開発センター 教授 藤本 眞一

平成 25 年 2 月 15 日 厳樞会館 3F 大ホールにおいて「医学教育講演会：医学教育をめぐる諸問題」と題し、文部科学省高等教育局医学教育課課長村田善則氏を演者に迎えて講演会が開催されました。本学単独で文部科学省の課長クラスの方を迎えて学内講演会を開催するのは、私の記憶する範囲で、初めてのことです。村田氏は、文部科学省で奈良県の文化財の保護に関する仕事にも従事されたことがあり、奈良、飛鳥の歴史にも精通されていました。

講演の内容は、最近、文部科学省から打ち出されている「医師養成の改善・充実の方向性」についてであり、話題として、診療参加型臨床実習の充実、国際的な質保障への対応、地域で求められる医療人の育成、研究医養成、リサーチマインドを持った総合診療医の養成、複数の疾患や問題を抱える高齢化社会に対応する医療人の育成などが取り上げられました。

いずれも本学が今一番力を入れて取り組もうとしている課題であり、これらの課題に関する文部科学省の考え方が多くの本学教職員に伝わったと思われます。多数の参加者があり、地域医療から入学前教育にまで及ぶ活発な質問もなされた充実した講演会でした。



MBT (Medicine-Based Town, 医学を基礎とするまちづくり) シンポジウムを開催しました

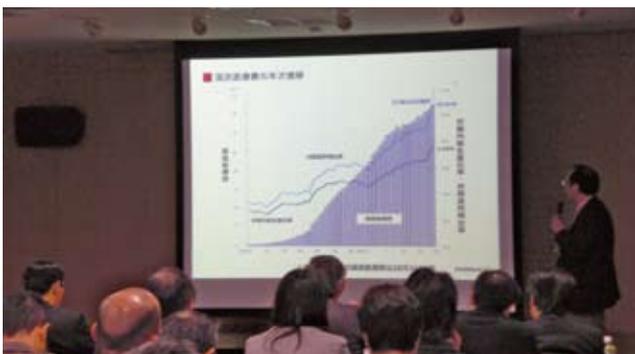
住居医学講座では、早稲田大学とともに、MBT (Medicine-Based Town) 構想に基づいた「医学を基礎とするまちづくり」に関する研究を進めており、平成 24 年度の研究報告に加え奈良医大とその周辺地域の将来像についての議論の場として、3 月 29 日 (金) に厳樞会館大ホールにおいて「MBT (Medicine-Based Town, 医学を基礎とするまちづくり) シンポジウム～奈良医大とその周辺の将来像を考える～」を開催しました。

吉岡学長の挨拶に続いて、細井裕司住居医学講座 (大和ハウス寄附講座) 教授が「住居医学の誕生から MBT へ」と題した講演を行い、その後、早稲田大学創造理工学部長の後藤春彦教授からは、「MBT 構想－医学と都市計画学の結実－」という演題で、同学建築学科佐藤宏亮助教からは、「Medicine-Based Town 構想」という演題で、

MBT に関する具体的なイメージや今後の方向性などについての基調報告がありました。

休憩後のパネルディスカッションでは、細井教授をモデレーターに、後藤教授をコメンテーターとして参加いただき、パネリストには早稲田大学の佐藤助教のほか本学の藤本眞一教育開発センター教授、脳神経外科学の山田修一助教、住居医学講座の遊佐敏彦助教も参加し、医師の立場と都市設計専門家の立場、それぞれの立場からまちづくりについて熱心に討論されました。

会場には本学や早稲田大学、大和ハウス工業 (株) 関係者以外にも県や市の行政関係者やまちづくりや ICT の研究者など約 70 人が参加し、シンポでの質疑でも活発な議論が行われ、今後の MBT 構想を更に推進するために非常に有益な議論の場となりました。



第 20 回 中島佐一学術研究奨励賞受賞者が決定しました

奈良県立医科大学において、医学の学術研究に優れた業績等をあげた若手教員を対象とした中島佐一学術研究奨励賞に、8 件の応募を頂きました。

平成 25 年 3 月 4 日に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、次の 3 名の方々が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。

所属	氏名	研究テーマ
耳鼻咽喉頭・頭頸部外科学	西村 忠己	骨導超音波聴覚の解明と臨床応用
血圧制御学	染川 智	動脈形成に関わる新規膜蛋白 TMEM100 の発見とヒト疾患への展開
消化器・総合外科学	山田 高嗣	iPS 細胞・ES 細胞を用いた人工腸管の臓器作製技術の開発

第 2 回 女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

「奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞」は、優れた研究成果を挙げた本学的女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的として、平成 24 年度に創設されました。本年度は 2 月 6 日に選考委員会を開催し、神経内科学講座の降矢芳子講師が受賞者に決定しました。

表彰式及び記念講演会は、2 月 20 日に巖櫃会館大ホールで実施されました。降矢先生おめでとうございます。



女性研究者支援センター研修会を開催しました

本学女性研究者支援センターは、2 月 20 日（水）巖櫃会館において、大阪府立大学女性研究者支援センターセンター長田間泰子先生をお招きし、研修会を実施しました。これまでは、ハラスメント関連の研修会が中心でしたが、今回は大学における女性研究者支援全般について「女性にとって働きやすい大学づくりー大阪府立大学の試みー」と題して田間先生にご講演をいた



だきました。大阪府立大学は、本学より 1 年先行して文部科学省の補助事業に採択され、田間先生からはこれまでの取り組んでこられた内容について、当初は工学系教員にほとんど女性教員がおらず、支援活動への理解を得ることが難しかったというような苦労話も含めて詳しくご説明をいただきました。そして、事業をすすめていく中で学内の連携が非常に大切であることを学び、女性にとって働きやすい環境とは、皆にとっても働きやすい環境であることから、採択期間終了後にも支援体制が継続されるべきであるというお話しもされていました。

講演後、会場からは大阪府立大学が取り組まれた「IRIS」という呼称で活躍している理系女子大学院生チームの府下市町村等への派遣活動の状況などについての質疑があり、問題点や成果など活発な議論が行われました。

女性研究者支援センターでは今後も同種の研修会を実施していきますので、積極的なご参加をお待ちしています。

正面玄関・総合案内付近の改修工事が完成しました

皆様、大変お待たせいたしました。

総合受付、総合案内、玄関ホール及び待合ホール周辺の改修工事が完成しました。工事中はいろいろと、ご迷惑をお掛けしましたが、職員や、患者の皆様のご理解とご協力により、大きなトラブルもなく竣工することができました。「大変明るく、上品な雰囲気になった」と患者さんの反応も上々の様です。

25年度も引き続き、廊下等の改修工事を行なっていますので、今後共ご理解とご協力よろしく申し上げます。



院内緑化“エコロジーガーデン”を導入しました

病院の利用者が心身ともに心地よい医療サービスを受けられる「安らぎ・潤い・憩い」のある快適な院内環境づくりを行うことを目的に、本年1月下旬から、院内緑化“エコロジーガーデン”システムを導入しました。

このエコロジーガーデンは、一般の植物よりも二酸化炭素や揮発性有機化合物の吸収に優れ、臭気の除去能力が高い観葉植物（エコ・プラント）と、活性炭や石灰岩を特殊加工した土壌（エコ土）を使用しているのが特徴です。これらのエコ・プラントとエコ土を組み合わせたプランターを、往来の多い玄関や



外来廊下等を中心に設置しました。観葉植物の鮮やかな緑と明るい色彩のプランターが人目を引いています。

なお、このエコロジーガーデンは、奈良県立医科大学に関係する企業様からの協賛金によって運営されています。ご協賛頂いた各企業様には、厚くお礼申し上げます。引き続き、協賛募集をしておりますので、関心のある企業様がありましたら病院管理課用度係までご連絡ください。



病院ボランティア活動紹介『安心・安全な病院を目指して』

ボランティアコーディネーター 川本 たか子

本学附属病院では、病院ボランティアとして49名の方が活動されています。外来患者さんを支援するラポール29名と院内学級ボランティア20名です。ラポールは、1階正面玄関周辺で、外来患者さんの案内・誘導、車椅子移動介助などを月曜から金曜日の午前中、年間を通じて活動しています。

朝の元気な挨拶と案内、ときには患者さんの話を聴くなどして『来院される患者さんに安心の場を提供』しています。また院内の4ヶ所に設置されたボランティア図書も管理しています。特に季節の行事として折り紙による雛飾り・端午の節句の兜づくり、七夕の笹飾り、クリスマスツリー飾りをボランティアコーナーで行っています。雛飾りは折り紙教室として好評で毎年患者さんも楽しみに参加されています。院内各所の窓口に飾られるなど患者さんと病院を繋ぐ大切な役割もしています。今年も2月の1か月間玄関ホールは雛人形を介する楽しいやり取りで、暖かな雰囲気につつまれていました。

日々の活動以外に縫製活動で、入院患者さんが利用する、赤ちゃんのおくるみやモニター袋・各種カバー等を作成しています。毎年、

学生のボランティア実習の受け入れにも協力しています。

院内学級ボランティアは、小児センター中心に入院中の子どもさんたちへの、本の読み聞かせ、クリスマス会などの病棟行事への参加等様々な活動を通じて、子どもさん支援をいただいています。

病院ボランティアはそれぞれに、『患者さんの助けになりたい、安心・安全な病院にしたい』という熱い思いで、患者さんと病院を繋ぐ架け橋として日々活動されています。ボランティアに感謝です。職員の皆さん、ボランティアコーナーの季節行事には是非ご参加ください。

病院ボランティアに興味がある方は病院管理課(内3216)までご連絡ください。



(看護部)

外来化学療法室での取り組み

外来科学療法室 看護師長 南口 淳子

化学療法は、手術療法そして放射線療法とともに「がんの集学的治療」のひとつとして欠くことのできないものです。現在外来化学療法室は、ベッド5床、リクライニングチェア9床の計14床で運営しています。1日の平均利用者数は約28人ですが、多い日は60人を超える利用があります。施設基準にあげられるように、化学療法の経験を5年以上有する専任の常勤医師と、化学療法に係る調剤の経験を5年以上有する専任の常勤薬剤師とともに、化学療法の経験を5年以上有する専任の常勤看護師を含めた10名の看護師が在籍しています。子育てのために育児休業制度を活用しながら勤務している看護師が半数を占めるので、毎日10名がそろわわけではありませんが、外来化学療法室の環境を活かした質の高い看護ケアが提供できるように体制を整えています。

近年の化学療法は、効果的で安全性の高い投与方法が確立され、また新しい薬剤(分子標的治療薬など)の開発や支持療法の進歩によって、高齢者や全身状態が低下している患者にも外来での治療が実施されるようになってきました。患者の意識の変化「がんの治療をしながら罹患前と同じように生活したい」「仕事を続けていきたい」という要望が高まってきたことも、外来での化学療法が普及する要因となっています。

外来化学療法室では、患者・家族が納得し、安心して治療を受けられることを大事にしています。患者や家族が、がん

に伴う症状や副作用などを正しく理解し、指導・教育を受けた内容を適切に想起できるようにセルフケア能力を高めて、生活の中で有害事象を予防し、今の状態が容態の変化なのか、有害事象の出現なのかを早期発見・対処できるようになることが目標です。外来化学療法の経験が3年以上の看護師は、受け持った患者のベッドサイドで限られた時間を有効に使うことで、患者の話を傾聴し、セルフケア能力を査定しながら適切なアセスメントや支援をしています。現在は経験の浅い看護師が多いので、まずは実務に欠かせない抗がん剤の組み合わせ・投与量・投与時間など、レジメンを理解して安全で確実な投与管理ができることを優先していますが、患者情報の共有や継続看護に向けた指導内容の共有などの患者カンファレンスは欠かせないように努めています。複雑化している化学療法を安心して受けていただくために、外来という限りある時間の中で、生活する患者を支える看護実践を私たちは心がけています。



部門紹介

C病棟 8階 (呼吸器内科・感染制御内科)

C病棟 8階は呼吸器内科・感染制御内科の混合病棟です。

呼吸器内科では近年増えつつある肺癌の患者さんが最も多く、長期間続く化学療法と闘いながら精神的な支援も行うことが看護師の役割として重要です。若い看護師からベテラン看護師まで、患者・家族へのサポート役として日々悩みながらも患者さんにとってどのように援助していくことがいいのか、みんなで話し合う風土を大切にしています。

また呼吸器疾患のため冬の間は体調をくずされる患者さんが多く、緊急入院も多くなります。しかしそんな煩雑な現場の中でもスタッフ一同、助け合う精神が強くチームの団結力は素晴らしいです。

感染制御内科では一般内科とは違い海外発症の感染症や、毎年大流行するインフルエンザ患者の対応、また県の拠点病



院としての役割を担う HIV 感染患者の受け入れなど年齢、性別、時期を問わず多岐にわたるケアが必要です。

仕事ばかりでなく、プライベートでも世代を問わずスタッフ間のコミュニケーションを大切にしています。最近では共通の趣味を通して山登りをしたり、写真撮影をしたり またスイーツ作りにと「ON OFF 楽しみながら…」をモットーに一生懸命の仲間たちです。いつも明るく、患者さんにとって良いケアをする努力を惜しまないスタッフ達です。

C病棟 3階 (集中治療部)

C病棟 3階 (集中治療部) は、ICU9床 CCU4床の計13床です。

ICUでは、特に侵襲の大きな手術後患者、心臓血管外科の術後のケアをしています。また、内科的な治療中に呼吸不全や腎不全などの機能不全 (院内救急含む) を発症した患者さんの治療や集中治療を必要とする小児の治療を行っています。CCUでは冠動脈疾患に限らず、心不全、重症不整脈など色々の心疾患の患者さんのケアを行っています。

ICUの看護職は看護補助者1名を含む43名で、そのうち男性看護師は8名です。他所属から異動してきた豊富な看護経験を持つナースと、ICUのベテランナース、そしてスペシャリスト2名で構成される看護チームです。専門知識の習得のために大学院に進学する人や、認定看護師の資格を取得したいと考える人、広い視野を身につけるために他大学で学ぶ人などがおり、「看護師としてのキャリアをどうしたいか」を語り合える環境となっています。そして、皆



クリティカルケアのスペシャリストをめざして元気に働いています。

ICUでは、患者の回復過程をみることもあれば、状態が急変することもあります。多くの器械や薬に依存して生命を維持している患者さんのそばで「命を預かっている」という緊張感を常に持ち、適切なアセスメントを行い、卓越したケアを提供できるよう頑張っています。高度先進医療が行われ、常に新しい医療が展開されています。学ぶ事も多く、看護師の役割がとても重要となる部署です。

患者さんの「元気になりたい」という気持ちや、ご家族の「元気になってほしい」という思いに寄り添いながら、日々看護しています。

精神医療センター

精神科病棟は、2006年11月に新築増床し精神医療センターとして稼働しました。現在、病床数は3階50床、2階40床、1階は外来、医局、デイケアです。

近年、精神疾患の多様化から外来患者数は院内1、2を争うマンモス外来で、病棟稼働率も95%を超える現状です。精神科は、チーム医療がとても重要で、医師を中心として、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士など様々な視点からの関わりが必要とされてきます。毎週水曜日には医師、看護師、精神保健福祉士、薬剤師などが集まり退院調整について話し合い、必要な患者さんには自宅を訪問する退院前訪問指導も行っていきます。

看護スタッフは平成25年1月現在42名で、病棟クラーク、外来受付、看護助手のみなさんも含め和気あいあいとしています。



いざという時の男性看護師は本当に頼もしい限りです。また精神科ならではの、レクリエーション (精神科リハビリテーション) を企画し良い評価を得ています。その後の反省会と称しての楽しみもあるようです。

精神科では身体的管理は勿論、直接目には見えない“心”の問題をケアしなければなりません。入院中は患者さんの一番身近な存在として“心”に寄り添える医療・看護を目指し、頑張っています。

医療技術センター 萱島技師長が臨床工学部門優秀演題賞を受賞!

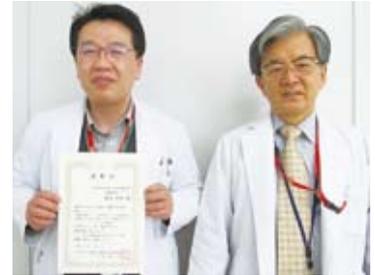
受賞者からひとこと

今回受賞しました『気管切開チューブ使用時の人工呼吸関連肺炎 (VAP) 予防—カフ上部吸引穴とカフサイズの検討—』の研究を始めたきっかけは、3年前、私が住居医学教室在籍時に、教授に言われた「臨床の現場で疑問はないですか」の問いかけでした。臨床での経験から、重症肺炎患者に人工呼吸器を装着する際、PEEP やモードによる気管切開口からの圧漏れを改善できないかと、医用工学の視点で研究し始めました。

実験方法も手探りでしたが、当時の指導教官の「臨床に近い条件で」とのアドバイスで、角度のついた模擬気管を

作成し、より臨床に近い実験ができました。これもひとえに住居医学教室の先生方のおかげと感謝しています。

最後に、日本集中治療医学会学術集会は歴史と伝統のある学術集会で、今回初めて臨床工学技士部門が独立して運営される第40回記念大会でありました。この大会で臨床工学技士部門の優秀演題に選出されたことを光栄に思い、これからも精進していきたいと思いを。



(研究推進課)

平成 24 年度 学会等における論文賞等の受賞一覧

所属	職名・氏名	賞の名称	受賞論文等	受賞
解剖学第一	女性研究者支援員 橋本 隆	Young Scientist Best Poster Award (14th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry)	Live Cell Imaging Analysis of Nuclear Mobility of ER α :Effect of SAFB1/2 Corepressors	平成 24 年 8 月 29 日
地域健康医学	講師 岡本 希	第 82 回日本衛生学会 学術総会最優秀演題賞	健康関連 QOL 尺度 15D 日本語版の開発—信頼性と妥当性の検証—	平成 24 年 3 月 25 日
	助教 福岡 公子	第 52 回近畿産業衛生学会優秀演題賞	芳香族アミン曝露作業者の発癌リスクに関する歴史的 コホート研究	平成 24 年 11 月 17 日
分子病理学	講師 笹平 智則	第 31 回日本口腔腫瘍学会優秀ポスター賞	口腔癌と大腸癌における Trk の役割の差異	平成 25 年 1 月 24 日
内科学第一	大学院生 松井 勝	第 7 回高血圧と冠動脈疾患研究会 特別研究賞	ヘパリン負荷後の血中可溶性 Flt-1 (sFlt-1) は慢性腎臓 病 (CKD) 患者における動脈硬化の進展及び心血管イベ ントの予測因子である	平成 24 年 12 月 22 日
	大学院生 上田 友哉	第 114 回日本循環器学会近畿地方会 YIA 優秀賞	Macrocytosis (MCV > 100) は心不全の予後の独立 した規定因子である	平成 24 年 12 月 15 日
	大学院生 菅原 裕	第 46 回京滋奈良 Interventional Cardiology 研究会 第 46 回玉井賞	院外心停止で搬送された 2 枝同時冠閉塞の血行再建に PCPS からの対側造影が有効であった 1 例	平成 24 年 9 月 29 日
内科学第二	准教授 吉川 雅則	平成 24 年度日本呼吸 ケア・リハビリテーション学会賞	慢性閉塞性肺疾患における栄養障害の病態と対策	平成 24 年 11 月 23 日
	助教 山内 基雄	第 17 回日本睡眠学会研究奨励賞	Differences in Breathing Patterning during Wakefulness in Patients with Mixed-Apnea Dominant vs. Obstructive-Dominant Sleep Apnea	平成 24 年 6 月 29 日
皮膚科学	医員 正嶋 千夏	平成 24 年度日本超音波医学会第 1 回新人賞	表皮嚢腫の超音波所見	平成 24 年 5 月 26 日
消化器・ 総合外科学	医員 木下 正一	International Symposium on Pancreas Cancer 2012 Young Investigator Award	Effect of adjuvant surgery after chemo- or chemoradiotherapy on locally advanced unresectable pancreatic cancer	平成 24 年 10 月 5 日
泌尿器科学	准教授 藤本 清秀	第 29 回稲田賞 (泌尿器科紀要刊行会)	酢酸クロルマジノン投与による前立腺肥大症患者の血 清 PSA 値およびテストステロン値の変動 - 多施設共同 前向き臨床研究	平成 24 年 7 月 28 日
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	助教 清水 直樹	第 71 回日本めまい平衡医学会総会 学術講演会ポスター賞	マウスにおける垂直性 OKR の検討	平成 24 年 11 月 29 日
麻酔科学	大学院生 後田 絢子	第 59 回日本麻酔科学会最優秀演題賞	全身麻酔によって頸部軟部組織量気道容積は変化する	平成 24 年 6 月 8 日
救急医学	医員 矢田 憲孝	平成 24 年度日本救急医学会科学論文賞 最優秀論文賞	敗血症性 DIC 症例に対する遺伝子組み換えトロンボ デュリンの凝固・炎症反応への影響	平成 24 年 11 月 14 日
	助教 関 匡彦	第 21 回日本熱傷学会 近畿地方会最優秀演題	近赤外線分光法を用いた rSO ₂ による熱傷深度測定 の検討	平成 25 年 1 月 12 日
公衆衛生 看護学	講師 入江 安子	平成 24 年度日本看護科学学会 第 11 回学術論文奨励賞	知的発達障害児を抱える家族のファミリーレジエ ンスを育成するための家族介入モデルの開発	平成 24 年 11 月 30 日
血圧制御学	講師 染川 智	第 42 回日本心脈管動物質学会 研究奨励賞	動脈形成に関与する新規 BMP9/BMP10 依存的血管内 皮遺伝子の同定	平成 25 年 2 月 9 日
病院病理部	主査 (技師) 西川 武	第 5 回サクラ病理技術賞	Tissue Processing (予備脱水法) における脱水・脱 脂に関する新しい概念の提唱と普及活動ならびに奈良 県における病理技術の精度管理および地域貢献	平成 25 年 3 月 15 日

※職名は受賞時の名称

レポート (役員会及び教育研究審議会の報告)

第36回 役員会 (1月9日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 任期制教員の再任審査について
 - (3) 発明等に関する審議体制・手順、報奨金・補償金制度等の見直しについて

第16回 教育研究審議会 (1月10日)

- 1 整形外科学 仲西医員及び産学官連携推進センター 刀根特任助手より提出のあった発明届について、それぞれ特許等を受ける権利の承継を決定
- 2 教員人事について、4月1日付け昇任、4月1日付け採用を承認
- 3 3月31日付け及び5月31日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった151名の再任審査を承認
- 4 発明等に関する審議体制・手順、報奨金・補償金制度等について審議体制・手順、報奨金・補償金制度の見直しについて承認

第17回 教育研究審議会 (1月15日)

- 1 化学教授候補者として酒井宏水氏を承認し、役員会に答申

第37回 役員会 (1月16日)

- 1 化学教授として酒井宏水氏を決定

第38回 役員会 (1月23日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の人事について
- 2 給与改定等を行うにあたって組合交渉の方針を決定
- 3 第1期中期計画及び平成24年度年度計画の取組み状況について確認
- 4 第2期中期目標及び中期計画について1/23経営審議会への提案内容について決定
- 5 看護職員採用試験において3名の合格者を決定
- 6 平成24年度決算見込みを報告

第39回 役員会 (2月6日)

- 1 附属病院外来に医師の事務補助を行うクラークを配置することを決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 教員の海外留学について

第18回 教育研究審議会 (2月7日)

- 1 教員人事について、3月31日付け退職、4月1日付け昇任、3月1日付け・4月1日付け採用、3月1日付け・4月1日付け配置換え、4月1日付けスポーツ

医学講座教授(寄附講座)の選考を承認

- 2 教員の海外留学について集中治療部・添田助教の海外留学を承認
- 3 第1期中期計画及び平成24年度年度計画の取組み状況(4月~12月)を確認
- 4 第2期中期目標・中期計画について現時点での案を確認
- 5 タイから受け入れている外国人客員研究員の受入期間の変更及び中国から外国人客員研究員を4月1日から1年間受入れることについて報告

第19回 教育研究審議会 (2月12日)

- 1 老年看護学Ⅱ教授候補者として水主千鶴子氏を承認し、役員会に答申

第39回 役員会 (2月13日)

- 1 老年看護学Ⅱ教授として水主千鶴子氏を決定
- 2 小児センターへ配置するための保育士の採用試験の実施を決定
- 3 臨床検査技師採用試験において2名の合格者を決定
- 4 財務状況(12月末現在)を報告

第41回 役員会 (2月20日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 教員の海外留学について

第42回 役員会 (2月27日)

- 1 看護職員採用試験において5名の合格者を決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 平成25年度予算案について
- 3 給与改定等にあたって行った組合交渉の結果を報告

第20回 教育研究審議会 (2月28日)

- 1 教員人事について、3月31日付け退職(任期満了によるものを含む)、4月1日付け昇任、4月1日付け採用を承認
- 2 教員の海外留学について眼科学・小島助教の海外留学を承認

第43回 役員会 (3月6日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 教員の海外留学について
 - (3) 第2期中期計画の策定について
- 2 医療技術センター副技師長の採用試験の実施について決定
- 3 緩和ケアセンター長の3/1付け病院長発令を報告

第21回 教育研究審議会 (3月7日)

- 1 教員人事について、3月31日付け退職、4月1日付け昇任、4月1日付け採用を承認
- 2 教員の海外留学について血圧制御学・尾上助教(寄附講座)の期間延長を承認
- 3 第2期中期計画案を確認
- 4 看護教育講師について新規5名、継続6名の称号付与について決定

第44回 役員会 (3月14日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 各種委員会の委員改選について
 - (3) 平成25年度予算案について
- 2 管理栄養士採用試験において1名の合格者を決定
- 3 平成24年度決算見込みを報告

第45回 役員会 (3月18日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 特任教員の人事について
 - (2) 第2期中期計画案及び平成25年度年度計画案について
- 2 平成25年度の組織等について危機管理室、医療メディエーション室、法人特命企画官の設置等を決定

第22回 教育研究審議会 (3月19日)

- 1 教員人事について、3月31日付け退職、4月1日付け昇任、4月1日付け採用、4月1日付け寄附講座の兼務発令・特任教員の更新(昇任申請含む)・客員教授の更新を承認
- 2 各種委員会の委員改選にあたって学長の指名による委員の選任は学長一任とすることを承認
- 3 第2期中期計画案及び平成25年度年度計画案を確認
- 4 平成25年度予算案を承認
- 5 4月1日付けの臨床教授等の選考について承認
- 6 ドイツ及びブラジルから外国人客員研究員を3月3日から5月30日までの受入れることを報告

第46回 役員会 (3月27日)

- 1 組織変更に伴う組織に関する規程等及び給与改定等のため職員給与規程等を改正
- 2 第2期中期計画を決定
- 3 平成25年度年度計画を決定
- 4 院内感染対策の充実と体制の明確化を図るため附属病院規程を改正

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
浅田 秀夫 教授 (皮膚科)	読売新聞 朝刊 1月6日(日)	「病院の実力」という連載で、当院皮膚科における診療内容についてインタビューを受けた。外来でしばしば遭遇する代表的な皮膚疾患を紹介し、日常生活における留意点や標準的な治療法について解説した。
出端 祥成 診療助教 (救急科)	読売テレビ系 「かんさい情報ネットten！」	奈良県で唯一の県立医科大学高度救命救急センターは、県中・南部の「命の最後の砦」となっている。年末年始も24時間絶え間なく診療にあたり、命と日々向かい合う医師だからこそ直面する問題や課題を提起した。
大林 賢史 特任助教 (地域健康医学)	奈良新聞 1月10日(木) 読売新聞 朝刊 1月29日(火) J-cast ニュース 1月30日(水)	寝室の夜間低照度曝露(中央値 8.7 lux)が、肥満症や脂質異常症と関連していることが大規模疫学研究(平城京スタディ)の初期対象者528名の横断解析により明らかになった。この成果は論文としてThe Journal of Clinical Endocrinology & Metabolismに掲載され、米国内分泌学会の機関誌「Endocrine News」2013年1月号にも紹介されました。
嶋 緑倫 教授 (小児センター)	NHK BS プレミアム「キズナでチャレンジ」 2月9日(土) 2月12日(火) 2月13日(水) 地上デジタル NHK奈良「キズナでチャレンジ」 2月21日(木) 3月8日(金) 3月12日(火) 3月15日(金)	昨年12月20日(木)、附属病院小児センターで開催しましたクリスマス会において、奈良医大のボランティアサークルの学生が入院している子ども達と一緒にハンドベルの演奏をみんなに披露しました。その達成に向け「知恵」、「汗」、「涙」を振り絞り、挑戦する姿を紹介し、人と人との絆の大切さを訴えました。

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.named-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

下ツ道 (編集後記)

今号から学報がカラー版に刷新されました。編集委員長に就任して以来、4年越しの念願が叶いとてもうれしいです。大学も彩り鮮やかになればいいなと心から願っています。

2013年度の医学科後期日程入試の倍率は24倍にも達しました。教職員も入試対応に追われ大変だったと思います。この難関を突破し奈良医大に入学された新入生のみなさん、私たちと一緒にがんばりましょう。

今村 知明

○今村 知明 (健康政策医学)
笹平 智則 (分子病理学)
藤本 雅文 (物理学)
橋本 顕子 (精神看護学)
堀口 陽子 (看護部)
藤谷 威行 (研究推進課)
永井 淳 (教育支援課)
吉田 一良 (病院管理課)
森田 英之 (総務課・広報室)
植松 聡 (総務課・広報室)
(○印は編集委員長)